

## 平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【米国大学等との協働教育の創成支援】

大学名	慶應義塾大学
構想名称	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築
相手大学等名 (国名)	アーヘン工科大学(ドイツ)、ダルムシュタット工科大学(ドイツ)、ミュンヘン工科大学(ドイツ)、ミラノ工科大学(イタリア)、KTH 王立工科大学(スウェーデン)、ルンド大学(スウェーデン)、マドリード工科大学(スペイン)、エコールサントラルグループ(フランス)、T.I.M.E. Association 加盟大学

### 【構想の目的及び概要】

#### ビジョン

グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成することを目的として、EU圏を中心に53の理工系高等教育機関が形成するネットワークであるT.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe) Associationとの連携を柱として、以下の事業を行う。

#### (1) 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

すでに導入されている欧州理工系大学(T.I.M.E. Association 加盟大学)とのダブルディグリープログラムの協定校を現在の4校から10校程度まで拡大し、日本人学生に対して留学の選択肢を増やすとともに、協定校から受け入れる留学生の多様性を高め、キャンパス全体の国際色を豊かにする。

#### (2) 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

ダブルディグリープログラム参加学生の修士論文共同指導をきっかけとしてさらに博士課程での共同指導へと接続する。そこから生まれた共同研究のテーマを軸に、両国関係研究者で国際協同研究プロジェクトを立ち上げる。

#### (3) 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

留学の準備課程として学部学生に対し短期のサマースクールを複数用意して、欧州で学ぶことを実感する機会を提供する。また、学部1・2年生を対象に少人数体制の「国際人材育成セミナー」を開講し、世界の中での自分の立ち位置を理解させるとともに、外国語教育と国際的な教養科目の充実を図る。

#### (4) 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

夏季休暇期間に各国協定校の学生向けに特化した本学および日本の紹介を目的とした短期講座を設置する。日本語の学習履歴に応じた日本語指導と低学年学生向けの研究室体験セミナーを実施し、修士課程における進路として本学大学院を紹介する。

#### (5) 産業界との連携によるインターンシップ科目の提供と修了後の進路整備

主に留学生に対して大学院在籍中の休暇期間を利用して日本企業でのインターンシップの機会を提供する。また、日本での就職を希望する学生に対して早期に情報提供を行う。

#### (6) その他、学術交流を促進するシンポジウム・研究集会等の開催等

事業の紹介などを目的とした集会開催、T.I.M.E. Association 年次総会のホスト、共同研究の発表会などを開催する。

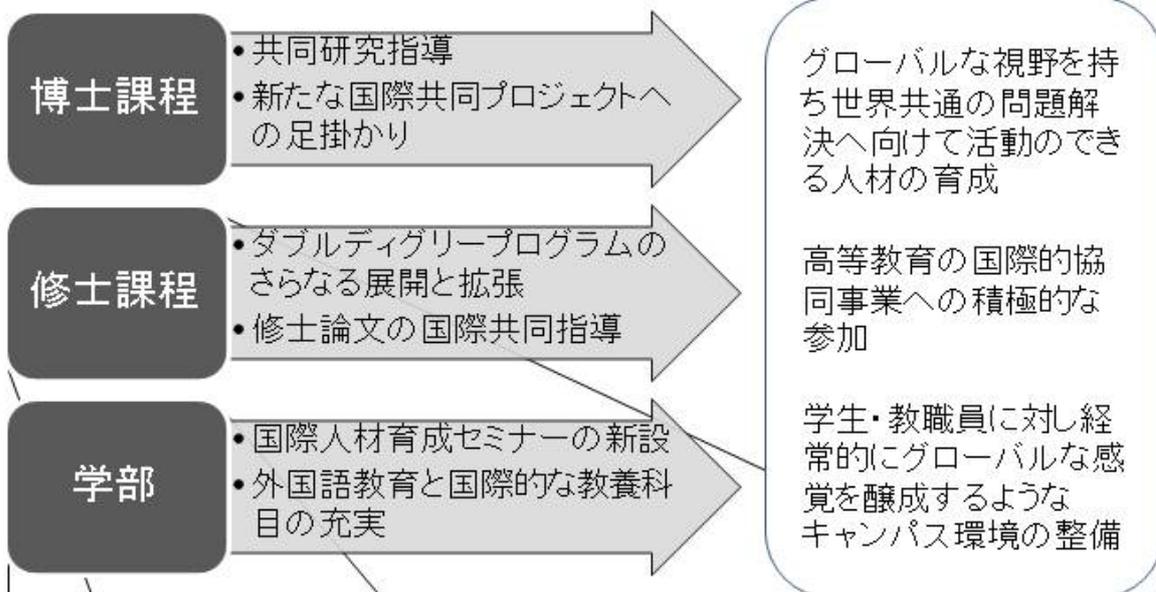
#### 将来的な発展性を含めた全体像

20世紀末の欧州統合を機に、欧米先進諸国において高等教育の関心は単なる留学生獲得競争から選択的なパートナーシップに基づく協調・協力へと移りつつある。すなわち、高等教育における人材育成は国際協同事業の性格を強めており、我が国の大学もその輪に積極的に参加することが求められる。本事業ではそのような良質のネットワークを代表するT.I.M.E. Associationへの参画を強化し、多彩な教育プログラムを学生に提供することで、言語や文化の違いを乗り越えて国際的な人脈を背景に活動できるグローバル人材の育成をめざす。事業期間終了時を目途に、日本人学生については修士課程ならびに博士課程在籍者のうちそれぞれ5%程度(70名程度)および50%程度(70名程度)が少なくとも1学期間は海外で過ごすカリキュラムを整備する。一方で、協定校からのダブルディグリープログラムによる外国人学生の受け入れ数は現状に対し年間50名程度の増員を目指す。これらの事業を継続するために優良なパートナーシップの継続性を重視し、学生・教職員に対して経常的にグローバルな感覚を醸成するようなキャンパス環境を整備する。

[構想の概念図]

相互接続を考慮した、課程ごとの取り組み内容

達成目標



T.I.M.E.\* Associationとの連携による  
修士課程ダブルディグリーの拡張

当面の連携重点相手校(事業期間中に10校程度まで強化)

- ・RWTH-Aachen (アーヘン)
- ・TU Darmstadt (ダルムシュタット)
- ・TU München (ミュンヘン)
- ・PoliMi(ミラノ)
- ・UPM(マドリッド)
- ・KTH(ストックホルム)
- ・Lund University(ルンド)
- ・Ecoles Centrale(フランス5都市)

\*Top Industrial Managers for Europe: 欧州を中心とする53の理工系高等教育機関ネットワークで修士課程のダブルディグリープログラムの普及を目的とする

学部教育システムの構築

留学へ向けた導入プログラムと準備課程の整備

- 短期海外研修の推進(欧州を中心に協定校で留学入門体験)
- 「国際人材育成セミナー」の設置(少人数形式の入門セミナー)
- 外国語教育と国際教養科目を充実させ、短期サマースクールとセミナーを必修とした理工系科目の副専攻としてサーティフィケート発行
- クォータ制の導入により欧米大学で設置されるサマースクールへの参加を推奨

その他の取組み

- 欧州協定校学生に対する日本留学紹介プログラム
- 産業界との連携によるインターンシップ科目の充実
- 学術交流を促進するシンポジウム・研究集会等の開催ほか

平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	慶應義塾大学
タ イ プ	B-II
構 想 名	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築
<p>〔評価コメント〕</p> <p>過去7年間にわたる欧州大学との連携実績を踏まえ、それを拡大した欧州理工系高等教育機関コンソーシアムT. I. M. E. Association加盟大学の最大10校と貴学の修士学生の3年間のダブル・ディグリープログラムの提案である。日本と欧州の修士課程の性格の違いを認識し、両者を補完する教育プログラムが提案され、教育効果が期待できる着実に先導性の高い計画である。</p> <p>学部時代の早期から、短期サマースクール、国際人材育成セミナー、外国語教育、国際教養科目を準備し、本プログラムに対して計画的な準備をしている。さらに、それを博士レベルでの共同研究指導に結びつけようとしており、プログラム全体が体系的に企画されている。</p> <p>また、修士課程学生の5%程度および博士課程学生の50%程度を、少なくとも1学期間海外研究滞在を経験させるという数値目標が意欲的である。</p> <p>産業界との連携によるインターンシップがよく配慮され、本プログラム終了後の進路に関するフォローが期待できる。</p> <p>なお、連携大学の修士課程に直接進学することに勝るメリットをより明確にすることが望まれる。</p>	